

令和元年度 学校自己評価

中央国際高等学校		達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)	B	概ね達成 (6割以上)	C	変化の兆し (4割以上)	D	不十分 (4割未満)	評価	A～Dの4段階評価とする	
「目指す学校像」		<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校として、心身ともに健全で知性及び情操豊かな青少年の育成 ・社会で生き抜く力を身につけることのできる学習環境を地域社会と連携して構築する 											
	目標及び実績						自己評価						
			中間申告	達成状況申告		※修正申告		所見・特記事項			評価	※修正評価	
	今年度の目標	方 策 (目標達成に向けた具体的な手順や時期等)	進行状況の整理 ・目標の修正等	目標の達成状況・次年度への課題	達成度	修正内容	達成度	(評価の理由を記するとともに、特筆すべき実践がある場合はその事実を記入する)				修正理由	評価
I 組織運営	①人材育成 ②情報共有 ③人材確保	①質の高い教育を提供するために組織的な人材育成を進め、職員一人ひとりの資質向上を図る。理念の共有、職員同士の相互理解、職員個々の経験の尊重と学内、学外での研修を実施する。②個々に持つ情報を共有し、諸問題の解決、情報、技術の属人化を防ぎ、より強固な組織作りと質の高い教育を提供できる学校運営を目指す。③生徒数増加に備え、科目に偏りなく教務職員を増員する。在職職員からの紹介、近隣大学への採用募集周知を強化する。	①宿泊を伴う形式での新入職員研修の実施。研修旅行の実施。②毎日の朝礼、夕礼での情報共有の習慣化。③職員、近隣大学への周知済み。	①②職員一人ひとりの目標の明確化、学校の目標の明確化が必要。情報共有は概ねできているが、業務分担における属人化が是正できていない。③新卒者2名の採用確保。採用者1名の紹介により、追加1名を採用することができた。このように紹介での人員確保を強化し、次年度も継続して採用を進めたい。	B			①②業務分担は学校運営において重要であるが、担当業務以外について状況確認、問題解決について積極的な姿勢が見えず、特に上司による業務進捗状況確認の不足、情報共有などが不完全であった。③所在地の人口減少、特に若者の流出により、若手職員の採用が難しい状況が続いた。今年度は近隣大学の新卒者を採用することができたが、科目の偏りを考え、県内大学を中心に採用について周知を強化、また魅力ある職場環境をアピールできるようにする。			B		
II 教育活動	①学習習慣と学力の定着 ②適切な進学指導 ③国際交流機会の提供 ④地域交流	①年2回ある御宿での集中スクーリングへの参加率を高め、レポートの指導を徹底して行うことで、着実に3年間で卒業できる生徒を育成する。②3年生では、とくに推薦などで進学を希望する生徒が多い現状に鑑み、小論文指導や面接指導など、単位取得以外の進学に必要な学習にも力点を置いていく。③集中スクーリングにおいて近隣大学の留学生をゲストとして招待し、生徒と交流機会を提供する。様々な国籍で、さまざまなバックボーンを持った留学生との交流が生徒の大きな財産となっている。④集中スクーリングで宿泊する民宿やボランティアの方々との交流を育てていく。地域社会の一員であるという意識の醸成を図る。	①前期集中スクーリングの参加率は概ね良好。②夏季休暇前の二者、三者面談を実施。③後期集中スクーリングにおいて留学生との交流機会を準備。④2、3年生は同宿に複数回宿泊することもあり、民宿の従業員の方々積極的にコミュニケーションを取り、自然と町の現状や歴史について知る機会にもなっている。	①集中スクーリングの参加率は向上。多くの生徒は御宿で体験型授業を受講することで、これまでの不登校期間での体験格差を多少なりとも埋めることができ、学習に対する苦手意識を減らし、学習意欲向上と興味を持たせるきっかけになっている。②進学、就職と殆どの生徒が進路を決めることができたが、進路未決定の生徒を0人にするのが今後の課題であり、学校の使命である。③留学生との交流が全学年、全生徒を対象として実施できなかった。④民宿での過ごし方(小規模イベント開催など)に改善の余地がある。	B			①御宿町の自然や産業などを生かしたスクーリングでの体験型授業は都市部で生活する生徒にとって日常では触れる機会が無いことを多く学ぶことができる貴重な時間になっている。ただし、学年が上がるにつれ、興味や意欲が減少してしまう傾向もわずかながら確認している。3年間の積み重ねで完結し、より魅力的な授業内容を構築することが今後の課題である。レポートに関しては主体的に学ぶ習慣づけという点では、まだまだ生徒の意識は低く、出題内容を集中スクーリングに連動したものに修正し、意欲的に学ぶことができるものにする必要がある。②進学への情報提供、面接指導などはできているが、大学受験に関する科目指導については自習の場を提供し、補助的な指導までに限定されている。塾、予備校などが無い地域環境を考慮し、進学コースの創設を検討すべき段階にある。③他国の文化などに触れる機会を増やし、生徒の興味、視野を広げることができるようにしていくこと。④御宿町を単に集中スクーリング開催地ということに留まらず、町の特性、魅力を伝え、振興に役立つことを考え、発信できる学習方法や地域社会との交流機会を構築していく。			B		
III 安全・保健	①学校環境及び生活の管理に留意し、安全な学校生活が送れるよう配慮する ②災害への意識向上 ③行事、スクーリングにおける安全管理、機器・用具・火などを使用する際の安全管理の徹底	①校舎・教室・校地等設備の安全確認・整備に留意し、教職員に周知する。②災害意識の啓蒙を職員・生徒に行う。避難訓練の実施や防災備品等を整える。③各種実施要項に安全面の対策を盛り込み、行事・スクーリングを実施する。行事担当責任者、授業担当者が認識をしっかりと持ち、実施に当たっても責任をもって実行する。	①定期的な確認、点検作業を継続。②必要防災備品の確認、保管方法の見直しなどを実施。③スクーリング実施前に学外活動場所の事前安全確認を実施。またスクーリング期間中は職員、生徒への事前周知を徹底。	①事務部が確認・点検・整備を担当し、特定の職員しか意識していない。全職員が意識し、適宜作業することを浸透させることが課題。②火災時の避難訓練は実施できたが、地震・台風・津波等への避難訓練は未実施。③授業時また事前の会議で口頭確認のみが現状。担当者の安全面に対する意識が希薄なことは否めない。実施要項に明記し、事前会議においても確認徹底をすることが課題。	B			①②秋の台風では開校以来の被害となり、日常の点検では図ることができない部分について、定期的、継続的な専門家による点検の徹底が必要である。被害確認から、修繕依頼、県への報告、修繕作業まではスムーズに対応できた。その一方で生徒、保護者への連絡については安全計画に基づいた順序で遂行することができず、状況に応じた判断力、連絡、確認方法の見直しが必要である。③これまでスクーリング期間中において重大事故は発生していないが、職員の理解と共有、生徒への周知徹底など随所に見直しが必要と判断する。			B		
IV 連携	①生徒、保護者との密な連絡・面談等を実施し、良好な信頼関係を築く ②地域との連携強化	①日々、生徒の様子に注視し、コミュニケーションを密にとり、必要に応じて面談を実施する。定期的に保護者と連絡をとり、生徒情報を共有し、問題点があれば一緒に解決していく。必要に応じて三者面談・保護者会等を開催する。②ビーチサッカー大会の開催にあたっては企画、運営の中心となり、地域の活性化の一翼を担う。また、親子科学教室を開催し、地域の児童向け教育事業として学びの場を提供する。	①日常的な生徒への声掛けを職員全員で実施している。スクーリング欠席者への連絡、保護者への連絡を徹底。②ビーチサッカー大会は同時に縁日を別会場で開催することを企画・決定した。大会と併せて準備を進める。	①自習で登校する生徒には担任だけではなく、職員全員で積極的に声をかけることを心掛け、指導、サポートに努めた。保護者には担任から定期的に連絡を取ることを目標としたが問題があった場合など限定的なものであった。②ビーチサッカー大会は過去最大規模での開催となり、夏のイベントとしての認知度を高めることができた。科学教室も毎回、多くの児童、保護者が参加している。	B			①生徒への連絡が中心で、ともすると保護者への連絡は何か問題があったときという傾向が強かった。定期的に連絡をし、コミュニケーションを深め信頼関係の構築をしていく必要がある。②集中スクーリングにおける町、地域関係各所、住民の協力や指導者として授業に参加いただくこと、またビーチサッカー大会開催など連携、関係性は良好である。ただし、当事者レベルでの関係性に限定される傾向もあることから、町民全体に学校の教育活動やイベント開催について広く知っていただく、参加いただくことが今後の課題となる。			B		

※ 修正申告及び修正評価欄については、達成状況申告及び自己評価が基準日前行われた場合であって、基準日現在において状況が変わった場合に限り記載する。